

Special Literary Exhibition

文学特別展

林芙美子の 「放浪記」

徳島滞在の謎に迫る

「林芙美子って徳島におったんやって、
知ってるん」

「うん、泪町のすずらんというカフェに
おったテルちゃんのことらしいなア」



写真提供 新宿歴史博物館

2026年10月3日[土]－12月27日[日]
徳島県立文学書道館

開館時間 | 9:30－17:00 休館日 | 月曜日(ただし10月12日、11月23日は開館、翌日休館)

観覧料 | 一般 520円[410円] 高校・大学生 360円[290円] 小・中学生 260円[200円]

[]内は20人以上の団体割引料金。

小・中・高校生は土・日・祝日・冬休み期間中は無料。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

主催:徳島県立文学書道館 後援:徳島新聞社/四国放送/NHK徳島放送局

Fumiko Hayashi's Diary of a Vagabond

Unraveling the Mystery of Her Stay in Tokushima

林芙美子は、明治36（1903）年、福岡県の門司に婚外子として生まれました。行商する母に連れられ九州を転々とし、13歳でたどり着いた広島県の尾道では、女学校で師や学友に恵まれ文学の才能を育みます。卒業後、恋人を追って上京するものの結婚は破談。風呂屋の下足番、セルロイド工場の女工、出版社の帯封書き、カフェーの女給などで生活をのぎ、その合間に「放浪記」の原型となる「歌日記」を書き始めます。

昭和5（1930）年、改造社から出版した『放浪記』が爆発的にヒットし、瞬く間に流行作家となった芙美子は、貪欲で華やかな作家活動を繰り広げますが、人気絶頂のさなか、47歳で突然この世を去ります。

「林芙美子は徳島に住んでいた」という伝説は、徳島の文芸同人誌「暖流」に掲載されたひとつの報告文を発端とします。確かに「放浪記」の中には徳島を描いた場面がいくつもあります。地元徳島でも、人から人へそのような噂が伝えられていたようです。しかし、芙美子自身が徳島を語ることはなく、この頃の日記や雑記帳を決して人に見せようとしなかったと言います。

林芙美子の「放浪記」は、自伝的小説であり、虚構であるのかもしれませんが、真実を追えば追うほど芙美子の本当の姿は、私たちの手をすり抜けてゆくようです。

率直で、生懸命で、美しいものや美味しいものが好きで、作家仲間からは嫌われたかもしれないけれど、多くの特に女性読者の共感を得てきた林芙美子。光と陰に満ちたその生涯に浮かび上がるはかなさを、徳島滞在説からも読み取ることができるのかもしれませんが。

私は宿命的に放浪者である。私は古里を持たない。

林芙美子「放浪記」



“林芙美子のいた徳島市汨町”（「暖流」第3号）



愛用のワンピースと銀座ヨシノヤ製のパンプス。思いのままにお洒落を楽しむなど、徳島にいた（かもしれない）頃には夢のまた夢だった。

新宿歴史博物館蔵



林芙美子「放浪記」

しつかりした故郷をもたない私達親子三人が、最近に土にいたのが徳島だった。女の美しい川の綺麗なこの町隅に、古ぼけた旅人宿を始めて、私は徳島での春秋を迎へた事がある。



『放浪記』改造社、昭和5（1930）年

関連イベント

講演会「不都合な存在でありたい」 柚木麻子（作家）

2026年11月22日〔日〕14:00-15:30

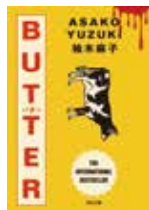
定員 | 180人

申込締切 | 11月1日〔日〕

1981年、東京都生まれ。2008年「フォーゲットミー、ノットブルー」で第88回オール読物新人賞を受賞。2010年、同作を含む『終点のあの子』でデビュー。2015年『ナイルパーチの女子会』で第28回山本周五郎賞を受賞。2017年に刊行された『BUTTER』の英訳版は2024年に出版され、イギリスのブリティッシュ・ブック・アワードのデビュー小説部門を日本人作家として初受賞するなど4冠を達成。205万部を超える世界的ベストセラーとして日本文学の新たな可能性を示し、第7回野間出版文化賞を受賞。林芙美子をこよなく愛し、「100分de名著 林芙美子『放浪記』」や『柚木麻子と読む林芙美子』を著す。



撮影 片野智浩



朗読劇「放浪記」

構成台本：瀬戸口郁

富沢亜古、瀬戸口郁、渡邊真砂珠（文学座）

2026年12月6日〔日〕14:00-15:00

定員 | 150人

申込締切 | 11月15日〔日〕



富沢亜古



瀬戸口郁



渡邊真砂珠

©文学座

学芸員による展示解説

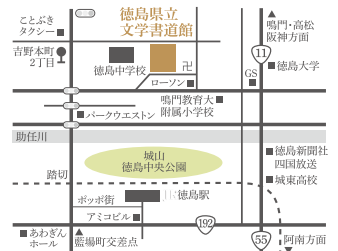
2026年10月25日〔日〕、12月12日〔土〕

各日 11:00-11:30

申込不要 | 要観覧券

はがき・FAX・メールのいずれかにイベント名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号をご記入の上、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。

■ 申込多数の場合は抽選を行います。



交通アクセス（JR徳島駅から）

■ 徒歩（約15分） | JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号を右折して約300m（徳島中学校東隣）。
■ バス | [徳島市営バス] 7番乗り場「川内循環線（右回り）」に乗り。吉野本町2丁目 で下車し、徒歩約5分。
[徳島バス] 15番乗り場「前川経由」に乗り。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
■ タクシー・自動車（約5分） | 国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。
■ 駐車場 | 当館北側・南側にあります（62台、大型バス2台）。

言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807

徳島市中前川町2丁目22-1

TEL 088-625-7485

FAX 088-625-7540

<https://www.bungakushodo.jp>

kotonoha@bungakushodo.jp

